

# ニュースレター

2016年7月

## 会員の皆様へ

一般社団法人 日本看護研究学会  
九州・沖縄地方会会長 藤田 君支

会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。4月に発生した熊本地震につきましては、一日もはやい復興を願うと共に、被災された皆様にはお見舞い申し上げます。九州各地では断続的な余震が続きましたが、東日本大震災からわずか5年で起こった自然災害の猛威の前で、今後の課題を痛感させられました

医療は人の健康の維持・回復・促進を目的とした活動ですが、大災害のたびに多くの課題に直面し、その教訓から発展してきたのが、災害派遣医療チーム（DMAT：Disaster Medical Assistance Team）や災害派遣精神医療チーム（DPAT：Disaster Psychiatric Assistance Team）です。DMATは皆さまもよくご存知のことと思いますが、医師、看護師などを中心とした医療チームで構成され、専門的な訓練を受け、災害現場で急性期に活動できる機動性を持っています。熊本地震と同規模の阪神・淡路大震災で、初期医療の遅れから「避けられた災害死」が多数あった可能性が指摘され、2005年に厚生労働省が日本DMATを発足しました。その後都道府県DMATも発足し、大規模災害や多傷病者が発生した事故では全国のDMAT隊員が自衛隊や消防と連携して広域医療搬送、臨時医療拠点、病院支援、現場活動などを行い、ドクターヘリやドクターカーも急速に普及しました。

DPATは大規模災害などで被災した精神科病院の患者への対応や、被災者のPTSDを初めとする精神疾患発症の予防などを支援する精神科医や看護師を中心とした専門チームです。先遣隊が72時間以内に派遣され、東日本大震災で活躍した「こころのケアチーム」の活動実績が認められて厚生労働省が組織化しました。

今回の熊本地震では、DMATが157隊、DPAT13隊が展開し（4月17日時点）、日本看護協会からも15チームが活動しました。災害が起きるたびにこ

のような整備が進んでいくのは皮肉なものですが、日ごろから研修を重ね、発災時に活動できる看護師は確実に増えています。2012年には現東京保健医療大学の石井美恵子先生が国内外の被災地支援に尽力した災害救急看護のエキスパートとして、ウーマン・オブ・ザ・イヤー大賞を受賞され、看護師の活躍が経済界にも周知されるほどです。

一方、急性期の医療活動を脱した後は、慢性疾患や高齢患者への医療支援の継続が問題となります。現地では病院や医療者も被災しており、他の地域から物的人的支援を受けて、合併症や健康状態の悪化を予防することになりますので、災害準備期より災害に備えることが必要だと改めて感じました。災害看護に関する研究は急速に増え、医療活動や被災者の実態調査、被災者支援の検討など多岐にわたっていますが、量的にも質的にも十分とはいえないため、災害における看護の役割を開発する研究がさらに必要だと思いました。



## 第20回日本看護研究学会九州・ 沖縄地方会学術集会を終えて

第20回日本看護研究学会九州・沖縄地方会  
学術集会長 砂川 洋子  
(琉球大学医学部保健学科教授)

第20回日本看護研究学会九州・沖縄地方会学術集会は、「実践知と研究知のHarmony & Empowerment」をメインテーマとし、平成27年11月21日（土）琉球大学医学部において開催させていただきました。プログラムは、特別講演、ランチョンセミナー、交流集会、研究助成発表、一般演題（口演23題、示説30題）と多彩で、おかげ様で九州沖縄の会員・非会員の190名余の多くの皆様の参加を賜ることができました。

さて、本学術集会の特別講演は、「看護の経験知と研究知をつなぐリフレクション」のテーマで、安酸史子先生（防衛医科大学校教授）にご講演いただきました。臨床における看護実践力や看護研究力をさらにEmpowerさせるためのKeyは、日々の看護実践においてReflection in action（行為のなかの省察）や、Reflection on action（行為についての省察）を意識化し繰り返してトレーニングを積むことや、現場のなかで常にReflection in (on) actionが行える組織風土や看護師自身のレジリエンスが肝要であることなどが述べられました。

総会においては、平成28年度地方会学術集会長として、宮崎県立大学栗原保子先生の推薦があり、承認されました。また、次年度は、地方会役員の選挙があることが案内され、今後の詳細については、Webやニュースレターに広報していくことが説明されました。



ランチョンセミナーでは、友愛会南部病院笹良剛史先生に「緩和ケアにおけるエビデンス〜がん患者・家族の痛みを癒す〜」のテーマでご講演いただきました。がん患者の疼痛緩和における鎮痛薬の使用方法、痛みのアセスメントと副作用対策に加え、症状の評価は患者自身の評価がゴールドスタンダードであるとされ、日々の疼痛管理ケアにおいて、丁寧なアセスメントする看護師の役割が重要であることが述べられました。

交流集会では、九州沖縄大学間連携共同教育連携事業「臨床と大学とのHarmonyによる（しなやかナース育成の取組）についての発表がなされ、その後の意見交換では、新人看護師の離職要因への対応策や本事業の取組のひとつであるナーシング・キャリアカフェが、学生のしなやかさ、レジリエンスの育成に有効であることなどが確認されました。その他、研究助成発表、一般演題として口演23題、示説30題の発表があり、活発な意見交換が行われました。

最後になりましたが、ご多忙のなか、査読や座長をお引き受けいただきました先生方、本学術集会にご広告やご寄附の協賛支援を頂きました企業団体の皆様、企画・実行委員の皆様、運営にあたってご協力頂きました皆様、学生ボランティアの皆様、心から感謝とお礼を申し上げます。

本学術集会が、20周年を新たなスタートとして、九州沖縄地区の看護学の発展と若い看護職者の研究力や高度実践力の育成に貢献できることを祈念し、無事終了できましたことを心より感謝申し上げます。



## 平成25年度 一般社団法人日本看護研究学会 九州・沖縄地方会研究助成 (木場・田島基金)の発表を終えて

久留米大学医学部看護学科  
加悦 美恵

私は、日頃より看護ケアにおける手のふれ方に関心があり、様々な角度から科学的・客観的に明らかにしたいと考えていました。そしてこのたび、光栄にも平成25年度研究助成を賜り、「仰臥位から側臥位への体位変換援助における看護者の姿勢と手の圧力の関連性の検討」に取り組むことができました。本研究では、看護者の両脚の開き具合やベッドの高低差による姿勢の違いが体位変換時の看護者の手指圧力ならびに患者の主観的反応にどのように影響を

及ぼすかについて実験しました。

研究成果は、第20回一般社団法人日本看護研究学会九州・沖縄地方会学術集会で報告いたしました。当日は、ベッドに対する看護者の前脚の位置設定について、基金創設者である田島桂子先生よりご質問いただきました。患者と看護者の距離が手指圧力に影響するのではとのご指摘であり、実験の条件設定について意見交換することができました。看護ケアに関する実験研究の積み重ねを期待しているともおっしゃっていただき、日頃の疑問を解明し、研究を推進していく勇気をいただきました。

平成25年度研究助成選考委員長東サトエ先生をはじめ、委員の先生方には研究計画、実施、報告に至るまで、懇切丁寧にご指導いただき感謝申し上げます。基金創設者である木場富貴先生、田島桂子先生にはこのような貴重な機会をいただき本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

\*~\*~\* 事務局より \*~\*~\*

### 平成29(2017)年度 日本看護研究学会九州・沖縄地方会 役員会選挙についてのお知らせ

平成26年に一般社団法人日本看護研究学会九州・沖縄地方会会則が改正された際に、役員になったメンバーの任期は平成27年4月1日～平成30年3月31日となっております。平成30年度から、新役員にバトンタッチするために、平成29年度に九州・沖縄地方会の役員選挙（任期：平成30年4月1日～平成33年3月31日）を行う予定です。今年度、宮崎県立看護大学で行われる学術集会・総会で、選挙管理委員の承認をいただき、選挙管理委員会の設置、その後、選挙の方法を検討していく予定です。会員の皆様の声が反映できる選挙が行えるよう、準備を進めていきたいと考えています。今後、総会やニュースレターなどで情報提供していきますので、ご確認の上、選挙の際には必ず投票を行っていただき、会員の皆様の声が反映された役員の選出ができればと思っております。

#### ●救援者のストレスマネジメント

4月に熊本・大分県を中心に発生した地震では、大きな余震活動が続き、九州地方に住む多くの方が地震とその脅威を体験しました。数か月が経った現在でも余震が続いており、被災者個々に応じた健康管理やこころのケアが必要になっています。同時にこの頃には、救援にあたる看護者にも疲労やストレス反応が生じます。災害時には、看護者自身も悲惨な光景を目にしたり、脅威を感じるなどのストレスを体験していますが、職業人としての責務から十分な休息をとることができず、過労に至ったり、救援、看護活動での成果が得られないことで無力感や罪悪感を抱くことがあります。これらのストレスからこころを癒すには、涙を流し・体験を言語化し・誰かと分かち合い、悲しみの時にひたる時間が必要です。

最後になりますが、被災地で支援にあたってくださる皆さまに深く敬意を表しますとともに、被災地の皆様が1日も早く健康で安心できる生活に戻れることを心よりお祈り申し上げます。

#### こころの3T(癒しの3T)

Talk — 安心して話してみる  
Tear — 悲しい時などは感情を素直に話す  
Time — 焦らず、ゆっくりと時間をかける

(参考) 黒田裕子, 酒井明子編集: 新版災害看護, メディカ出版2009

# 一般社団法人日本看護研究学会 第21回九州・沖縄地方会学術集会開催概要 メインテーマ:実践と研究の有機的連動 ―看護の知の創出をめざして―

このたび日本看護研究学会第21回九州・沖縄地方会学術集会を宮崎で開催することになりましたので、ご案内申し上げます。

今回のメインテーマは、「実践と研究の有機的連動―看護の知の創出をめざして―」と致しました。看護学の発展に寄与する研究とは、看護の質の向上を図り、実践に活かすことができることを目指したものです。実践から導き出された研究の成果を実践に還元するという循環を、より身近なものとして捉えることができる学術集会にしたいと考えております。

特別講演では、「看護実践と研究を紡ぐアクションリサーチ ―その考え方と技法―」のテーマで、遠藤恵美子先生（武蔵野大学 名誉教授，ニューマン理論・研究・実践研究会 会長）にご講演頂く予定です。

会員の皆様をはじめ、多くの方々にご参加頂きますよう企画委員一同お待ち致しております。

第21回日本看護研究学会九州・沖縄地方会  
学術集会長 栗原 保子

- 日時：2016年11月12日（土）9：00～16：00
- 会場：宮崎県立看護大学 高木講堂及び教育研究棟
- プログラム

時間	内容
8：30～	受付
9：00	開会
9：05～9：25	学術集会長 挨拶
9：30～11：00	特別講演 「看護実践と研究を紡ぐアクションリサーチ ―その考え方と技法―」 講師：遠藤恵美子氏（武蔵野大学 名誉教授 ニューマン理論・研究・実践研究会 会長） 座長：栗原保子（宮崎県立看護大学看護学部 教授）
11：10～11：40	総会
11：50～12：45	ランチョンセミナー
13：00～14：00	教育講演 「看護研究における倫理を問う」 講師：岩江荘介氏（宮崎大学医学部社会医学講座研究倫理支援分野 准教授） 座長：田中美智子（福岡県立大学看護学部 教授）
14：15～16：00	一般演題
16：00	閉会

- 一般演題募集期間：2016年6月6日（月）～8月8日（月）
- 事前参加登録期間：2016年7月19日（火）～9月30日（金）
- 学会ホームページ：jsnr-kyu21.jp
- 学術集会参加費

	事前参加申し込み	当日参加申し込み
会 員	3,500円	4,000円
非 会 員	4,000円	4,500円
学 生	大学院生 1,000円（抄録代含）、学部生無料（抄録代別）	

- 学会事務局：宮崎県立看護大学看護学部看護学科 基礎看護学  
〒880-0929 宮崎市まなび野3丁目5番地 1  
TEL：0985-59-7753 FAX：0985-59-7772